

令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人いわて連携復興センター

1 はじめに

東日本大震災から10年が経ちました。メディア等による10年という数字的な切れ目による各種報道や特集のほか、私たち非営利セクターも震災からこれまでを振り返り、これからの被災地を考えていく場が多くありました。復興庁被災者支援コーディネート事業による各種検証事業や、実行委員として参画したvoice from 311の取り組みなどが、その活動の一例にあげられます。

また今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に係る影響が大きい年でもありました。私たちの団体が得意とする、対面を基本としコミュニケーションが難しくなり、オンラインツールを活用したコミュニケーションが多くなりました。年度当初は、どのようなコミュニケーションを図っていくか試行錯誤が続きましたが、Zoomの契約やオンライン配信のノウハウ取得など経験を少しずつ重ね、コロナ禍に合わせた手法で、各種事業で果たすべき取り組みをほぼすべて行うことができました。

防災の取り組みでは、休眠預金事業を活用し行政・社会福祉協議会・NPO等による地域の三者連携体制の構築や災害時に対応できる担い手を創出する取り組みがはじまりました。休眠預金事業は3年間の継続事業となります。しっかり先を見据えた取組にしていきたいと思えます。

その他、スタッフの中には、コロナ禍でありながらも、外部講師や会計支援などの要請をいただくなど、事業以外でも活躍も見られるようになってきました。

以上、この1年間事業を無事推進できたことに対し、関係各位のご指導、ご協力に厚く御礼を申し上げますとともに、実施各事業について事業報告をさせていただきます。

2 実施事業

(1) 「復興支援団体の連携調整」に係る事業

○岩手県内の持続的な被災者支援体制構築に向けた検証と CDN 事業（交付金事業：復興庁）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

被災者支援の課題解決に向けたコーディネートを行い、被災者及び被災地域の真の復興を成し遂げることを目的に実施する事業です。具体的には、今後5年10年を見据え持続的な官民による支援体制の構築を目指す「被災者・被災地の課題解決を図るコーディネートと、持続的な支援体制の構築事業」、各種コーディネートや支援体制の構築に向けた知見をこれまで多様な主体が取り組んだ復興支援から包括的に捉える「多様な活動主体が協働する取り組み検証事業」の2つを軸とした取り組みを行いました。「被災者・被災地の課題解決を図るコーディネートと、持続的な支援体制の構築事業」では、被災地域の現状・課題、個別の支援ニーズ等の把握及び整理、被災3県が連携し企画運営を行ったシンポジウムの開催などを行いました。「多様な活動主体が協働する取り組み検証事業」では、復興支援活動に従事した方々の協働事例や協働におけるポイント等をヒアリングしまとめたほか、他セクター間の協働におけるコーディネート機能の事例のとりまとめなどを行いました。

○NPO活動交流センター運営事業（委託事業：岩手県）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

盛岡市のNPO法人いわてNPOフォーラム21と協働で実施する事業です。いわて連携復興センターは、昨年度に引き続き、市民活動の促進や市民活動団体の持続的な運営に資するセミナーの開催、また岩手県民計画を踏まえた協働フォーラムの実施を行いました。本事業を進めることにより、行政や被災地以外の

NPO 等との新たなつながりが生れています。各取り組みの詳細は下記の通りです。

■講座等実績

NPO 基礎講座（入門編）

講座名	講師・事例紹介者など	開催日	会場	参加人数
活動を推進するためのオンライン活用基礎講座	NPO 法人アットマークリアス NPO サポートセンター 鹿野 順一 氏	令和 2 年 7 月 22 日	釜石 PIT	43 名
いまさら聞けない「なぜ、SDGs？」～SDGs との関わり方を考える～	NPO 法人いわて連携復興センター 酒井 菜穂子、高田 真理子	令和 2 年 9 月 19 日	江刺生涯学習センター	18 名
新しい生活様式に合わせた NPO・地域活動とは	紫波町地域おこし協力隊/コミュニティーナース 星 真土香 氏 NPO 法人紫波さぶり 細川 恵子 氏	令和 2 年 3 月 23 日	紫波町情報交流館大スタジオ	30 名

NPO 基礎講座（総務・税務・会計・広報等）

講座名	講師・事例紹介者など	開催日	会場	参加人数
ファンディング講座～寄付を知る、共感を集める～	NPO 法人いわて連携復興センター 葛巻 徹 氏 NPO 法人まんまるママいわて 佐藤 幸恵 氏	令和 2 年 8 月 6 日	陸中ビル大会議室	14 名
ファンディング講座～寄付を知る、共感を集める～	NPO 法人いわて連携復興センター 葛巻 徹 氏 NPO 法人まんまるママいわて 佐藤 幸恵 氏	令和 2 年 8 月 7 日	やはばーく大研修室	19 名
NPO の出口戦略～変更・合併編～	認定 NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 関口 宏聡 氏	令和 3 年 1 月 29 日	岩手教育会館 ※講師はオンライン	29 名

NPO マネジメント力強化講習（休眠預金・遺贈関係・助成金申請・地域課題解決人材育成・事例研究）

講座名	講師・事例紹介者など	開催日	会場	参加人数
NPO の活動を見える化する方法（NPO における「評価」の初歩を学ぶ～基礎編～	一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボ 千葉 直紀 氏 鎌倉 幸子 氏 大沢 望 氏	令和 2 年 12 月 2 日	岩手教育会館	36 名
NPO の活動を見える化する方法（NPO における「評価」の初歩を学ぶ～応用編～	一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボ 千葉 直紀 氏 鎌倉 幸子 氏 大沢 望 氏	令和 2 年 12 月 3 日	岩手教育会館	22 名
NPO の出口戦略～解散編～	認定 NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 関口 宏聡 氏	令和 3 年 1 月 29 日	岩手教育会館 ※講師はオンライン	36 名

いわて協働推進フォーラム

講座名	登壇者	開催日	会場	参加人数
三陸鉄道と地域づくり	●コーディネーター みやこ浄土ヶ浜遊覧船 遊覧船事業部長 八重樫 真 氏 ●パネリスト 三陸鉄道株式会社 橋上 和司 氏 野田村未来づくり推進課 古舘 良太 氏 プラザー工業株式会社 岩田 俊夫 氏	令和 3 年 2 月 2 日	宮古市 イーストピアみやこ多目的ホール	42 名
首都圏と岩手をつなぐ遠恋複業	●コーディネーター 株式会社パソナ 東北創生 林 光人 氏 ●パネリスト 岩手働き方改革推進支援センター 水島 壽人 氏 株式会社かまいし DMC 河東 英宜 氏	令和 3 年 2 月 8 日	盛岡市 エスポワールいわて 2F 大中ホール	41 名
北いわての豊かな地域資源を生かした地域づくり	●コーディネーター 認定 NPO 法人カシオペア市民情報ネットワーク 大久保 瞳 氏 ●パネリスト NPO 法人いちのへ文化・芸術 NPO（御所野縄文博物館勤務） 鈴木 雪野 氏 二戸市滴生舎 小田島 勇 氏 株式会社小松製菓 青谷 耕成 氏	令和 3 年 2 月 10 日	二戸市 二戸市シビックセンター 1 階ホール	54 名

○被災者の主体性醸成による地域コミュニティ支援事業（補助事業：復興庁）＊実施期間：令和2年4月～令和3年3月

被災者の心の復興に資する取り組みを行うもので、主に災害公営住宅の自治会向けのコミュニティ形成支援を行う事業です。今年度も岩手大学の船戸義和特任助教とともに事業を進め、岩手県内外で活動を行いました。今年度、自治会交流会はコロナ禍の影響により小規模となりましたが、岩手・宮城の両県から災害公営住宅自治会が参加し、第5回目を開催しました。

○JCN 地域コーディネーター推進事業（委託事業：東日本大震災支援全国ネットワーク）＊実施期間：令和2年4月～令和3年3月

東北の課題を全国につなぎ、ともに考える事業です。具体的には、3.11 の今がわかる会議の登壇者調整や現地運営、JCN ツアー、3.11 ユースダイアログ登壇者調整や現地運営を行いました。今年度は、これまでの復興過程で関わりのあった方に、今一度東北に思いを向けていただけるような機会を多く持ち、継続して東北に関わっていただける機会につなげることができたと思います。取り組みの詳細は下記の通りです。

3.11 いまが分かる会議

講座名	登壇者	開催日	会場	参加人数
「震災復興からの生活再建 ～生きづらさを抱える方へのまなざしとは～」	岩手:特定非営利活動法人フードバンク岩手事務局長 阿部 知幸氏 /宮城:一般社団法人 パーソナルサポートセンター執行役員 平井 知則氏 /福島:特定非営利活動法人 いわき自立生活センター理事長 長谷川 秀雄氏 /全国:中核地域生活支援センターがじゅまる センター長 朝比奈 ミカ氏 /コーディネーター: JCN 栗田暢之氏	令和2年 9月26日	オンライン	90名
「被災地域の賑わいづくり ～地域に誇りをもち、地域の魅力を活かすとは～」	>岩手:宮古市地域おこし協力隊吉浜 知輝氏 /宮城:気仙沼まち大学・特定非営利活動法人底上げ成宮 崇史氏 /福島:もーもーガーデン by 一般社団法人ふるさとと心を守る友の会 代表理事 谷 咲月氏 /全国:(福岡県)津屋崎ランチ LLP 代表 山口 覚氏 /コーディネーター: JCN 岩手担当 富田愛氏	令和2年 10月10日	オンライン	93名
「東日本大震災からの10年 ～これまでとこれからの地域を歩む人々の思いとは～」	岩手:NPO法人wiz理事長 NPO法人いわて連携復興センター 理事中野 圭氏 /一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 代表理事 伊藤 聡氏 /宮城:一般社団法人日本カーシェアリング協会代表理事 吉澤 武彦氏 /福島:特定非営利活動法人ザ・ピープル理事長 吉田 恵美子氏 /コーディネーター: JCN 栗田暢之氏	令和2年 10月31日	オンライン	91名

JCN パーチャルツアーin 岩手

動画取材協力者	登壇者	開催日	会場	参加人数
カレーと手作りおやつフライパン (陸戦高田市) 熊谷 克郎氏、中野えびす丸 (大船渡市) 中野 圭氏 三陸鉄道株式会社 (宮古市) 中村 一郎氏、おおつちおぼちゃんくらぶ 川原田 洋子氏 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 伊藤 聡氏、NPO法人遠野まごこ	中野えびす丸 (大船渡市) 中野 圭氏、三陸鉄道株式会社 (宮古市) 中村 一郎氏 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 伊藤 聡氏	令和2年 11月28日	オンライン	約80名

ろネット 多田 一彦氏				
-------------	--	--	--	--

3.11 コースダイアログ

登壇者	開催日	会場	参加人数
宮城：星 幸果さん 福島：石井 和貴さん	令和2年11月25日	東京都立大学	約25名
岩手：久保田 海世さん 福島：瀧美 藍さん	令和2年12月3日	金城学院大学	約50名
岩手：川崎 杏樹さん 福島：志賀 風夏さん	令和2年12月11日	鶴見大学	約80名
岩手：太田 夢さん 宮城：永沼 悠斗さん	令和3年1月24日	荒川社会福祉協議会	—

○voicefrom3.11（自主事業）

voicefrom3.11 実行員会の一員として、東日本大震災から10年、被災者・避難者・それを支えた支援者それぞれの「言葉」を集め、「復興とはなにか」を考える『言葉の集い』や、多くの「言葉」をもとに、これまで311に関わったことがある人たちがつながり、次の災害を見据えて、なにをしていくべきなのかを話し合い、発信する『みんなの集い』、10年経った今、被災した地域とそこに関わった人をつなぎなおし、お互いが元気になる場を作る『つながりの集い』などを行いました。令和3年3月6日に『つながりの集い in 釜石』、令和3年3月7日に『つながりの集い in 陸前高田』を行いました。

○「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」の組織基盤強化事業（経営者ゼミ）（助成事業：認定特定非営利活動法人日本NPOセンター）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

タケダ・いのちとくらし再生プログラムの一環として行われるもので、東日本大震災被災3県のNPOリーダーを募り（各県5名程度）、年間を通じて組織経営と運営の在り方について研鑽し、個別組織の活動基盤を強化すると同時に、地域ごとの長期的な連携の基盤を作ることを目指すものです。今期が最終第5期となり、より研究色のある取り組みを行いました。いわて連携復興センターは岩手県の幹事団体として、岩手県内の参加3団体の調整等を行いました。

○東日本大震災以降の被災者支援制度の課題の明確化と提案事業（助成事業：認定特定非営利活動法人日本NPOセンター）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

タケダ・いのちとくらし再生プログラムの一環として行われるもので、これまで各法改正などに尽力されてきた有識者とともに、災害救助・被災者支援の制度変更を目指していく事業です。いわて連携復興センターは、当該事業における事務局として、ホームページの開設や、勉強会の運営等を行いました。

○令和2年度さんりくになりわい創出支援事業販路開拓等支援業務（委託事業：岩手県）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

一般社団法人 SAEIWATE、認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークと協働で、三陸地域における起業家支援（販路拡大、情報発信、スキルアッププログラムの開催、新商品品評会の開催等）を行いました。その中でも、いわて連携復興センターは沿岸部の9つの事業者を担当したほか、コロナ禍の影響で県外の販売会は行えませんでした。代替となる県内の販売会や報告会の運営等を行いました。

◆令和2年度NPO等による復興支援事業 首都圏企業とNPOとの交流会事業（委託事業：岩手県）*実施期間：令和2年9月～令和3年3月

岩手県内のNPOが持続的な活動を目指し、首都圏とのマッチングを図る事業です。今年度は、オンライン

開催ということもあり、参加 NPO10 団体の団体紹介映像を作成し、事前にホームページに掲載するなど事前周知に力を入れました。交流会は令和3年2月19日にオンラインで開催し、26社（団体）28名の参加をいただきました。今回は完全オンライン開催でしたが、リアルよりも深い話しあいになった団体が多かった印象を受けました。参加者も首都圏の他、岩手県内や関西圏の企業の参加も見られました。

○東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業（岩手）（補助事業：公益財団法人東京都歴史文化財団）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

アートを活用したコミュニティ形成プログラムを県内沿岸部で実施する事業として、今年度は釜石市において『ぐるぐるミックス in 釜石』と『とうほくのこよみのよぶね』のプログラムを、釜石市の特定非営利活動法人アットマークリアス NPO サポートセンターさんと連携して実施しました。

（2）「防災」に係る活動

○岩手県内の支援体制構築と支援者の育成・創出事業（助成事業：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）*実施期間：令和2年5月～令和3年3月

岩手県内において、県域及び市町村域による行政・NPO・社会福祉協議会の3者連携の確立と、支援現場において専門的な知識をもつ人材育成、そして実際に活動するボランティア組織が増え、自然災害時の支援のモレやムラ、そして支援災害弱者が生まれない地域なることを目指す事業です。3者連携の確立においては、関係各所との折衝や行政・社協・NPO等が参加する勉強会の開催などを行いました。

○いわて NPO 災害支援ネットワークの事務局運営 *実施期間：令和2年4月～令和3年3月

いわて NPO 災害支援ネットワークの一員として、定例会の運営や行政・社協等との調整、事務局の会計等を行いました。定期的に意見交換を行い、顔が見える関係性は、有事の際にとっても大きな意味を持ちます。引き続き新規入会団体を募りながら、新たな団体と顔が見える関係を築くことにより円滑な支援へつなげていきたいと思えます。

（3）「震災アーカイブ」に係る活動

○東日本大震災から10年を踏まえた、いわて連携復興センターの歩みと役割の検証事業（自主事業）*実施期間：令和2年4月～令和3年3月

いわて連携復興センターが行っているコーディネーション業務を可視化しようと、外部有識者を交え。「サードセクターにおけるコーディネーターの役割と求められる能力に関する検証～いわて連携復興センター10年の歩みから～」の作成を行いました。このまとめをもとに、組織内の共通理解を図っていくほか、組織外へのコーディネーターの理解促進を図っていきたくて考えています。

3 主な会議・行事等開催日程

○通常総会

令和2年5月28日（木）16：00～ いわて連携復興センター会議室+オンライン 出席者17名

○理事会

第1回 令和2年5月19日(火) いわて連携復興センター会議室+オンライン 出席者7名
第2回 令和2年11月6日(金) いわて連携復興センター会議室+オンライン 出席者7名

4 運営に関する報告

○会員数(令和3年3月31日現在)

正会員数:21(個人正会員19名 団体正会員2団体) 協力会員2(2団体)